

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 改訂された急性胆嚢炎診療ガイドライン(Tokyo Guidelines 2018)の安全性・有効性に関する検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 外科 職位・氏名 准教授 浅井 浩司

【試料・情報の利用目的】

東邦大学医療センター大橋病院外科では、急性胆嚢炎のガイドラインである Tokyo Guidelines2018 の安全性・有効性の評価を行うことを目的として本研究を計画しました。この研究で得られる成果は、急性胆嚢炎の治療成績の向上につながることを期待されます。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2025年3月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

該当せず

【試料・情報の取得方法】

この研究は、大橋病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者:2005年1月から2024年12月までに東邦大学医療センター大橋病院外科において、急性胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢的手術術の手術を受けた方 611例を対象とします。

(対象症例の中で手術施行時に認知症、未成年の患者さんは含んでおりません)

方 法:診療録から抽出したデータを含めて解析をします。

【研究に用いられる試料・情報】

情報:病歴、診療の治療歴、術後合併症等の発生状況、個人情報 等

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【術前因子】

年齢、性別、併存疾患と評価(American Society of Anesthesiologists: ASA 分類, Charlson comorbidity index: CCI 分類, など)、発症から来院までの時間、術前胆嚢ドレナージの有無、術前待機期間, など

【術中因子】

手術時間, 出血量, 術中合併症(胆管損傷の有無), 開腹移行, など

【術後因子】

最終病理結果, 術後在院期間, 術後合併症, 退院後 3 か月以内の再入院の有無, 退院後合併症(腹腔内膿瘍, 胆管狭窄など), など

【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院 外科

研究代表者: 浅井 浩司 役職: 准教授

【利用する者の範囲】

共同研究施設はございません。

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院 外科 浅井浩司

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2025年3月31日までに下記へご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。なお、血縁者の方も代諾者となり得ますので、研究に参加を希望されない方はご連絡ください。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 外科

職位・氏名 准教授 浅井 浩司

電話 03-3468-1251 内線 7176